

| ＜ もくじ ＞                         |   |
|---------------------------------|---|
| 1. 2021年度連続講座「安心の長寿社会に向けて」のお知らせ | 1 |
| 2. 「ひとと原発～失われたふるさと」上映・対談会の報告    | 1 |
| 3. 研究会からのお知らせ                   | 3 |
| 4. 研究会からの概要報告                   | 4 |
| 5. 事務局からのお願い                    | 5 |

## 1. 2021年度連続講座「安心の長寿社会に向けて」のお知らせ

人生100年時代の幕開けが、新型コロナウイルスの感染拡大と重なるとは、誰もが想像しなかったでしょう。長寿が当たり前と思われていたのに、突然コロナによって、その人生を終わる人も少なくありません。

この講座では、ソーシャルディスタンスを維持しながら良い人間関係を保つには、人生の最終段階を安心して迎えるには、そして愛する人と死に別れた後どう立ち直るかなど、人生の危機的な出来事を乗り越えるためのノウハウが詰まっています。多くの方にご参加いただき、これからの生き方の参考にしていただければ幸いです。

### 第1回 テーマ：心に届く言葉～伝わるコミュニケーションの大切さ～

日時：10月13日（水）14：00～16：00

講師：平井葉子（一般社団法人シニア社会学会理事、フリーアナウンサー、一般財団法人健康・生きがい開発財団認定健康生きがいづくりアドバイザー、新潟県生涯学習協会総務委員）



### 第2回 テーマ：終活互助～①住まい～

日時：11月13日（土）14：00～16：00

講師：川村匡由（一般社団法人シニア社会学会理事、武蔵野大学名誉教授、行政書士有資格、福祉デザイン研究所（任意団体）所長、地域サロン「ぷらっと」主宰、山岳紀行家（元日本山岳会員）



### 第3回 テーマ：グリーンケア ～哀しみとともに生きる～

日時：12月18日（土）14：00～16：00

講師：中村昌子（一般社団法人シニア社会学会運営委員、市川市教育委員会外国語指導員、地域猫活動ボランティア、グリーン専門士、ペットロス専門士、外国語活動指導員）



開催方法：3回ともオンライン開催

参加費と申し込み方法：現在、有料を前提に検討中

※ 参加費と申込方法が確定しましたらチラシに掲載して、改めて詳細をお知らせします。

## 2. 「ひとと原発～失われたふるさと」上映・対談会の報告

当学会でも支援してきた脚本家・映画監督の板倉真琴さんのドキュメンタリー映画「ひとと原発～失われたふるさと」が完成しました。当学会では「私たちはフクシマを忘れない」シンポジウム

を続けてきましたが、映画の完成を期に、上映・対談会を開催いたしました。当日は、会場も含めて32名の参加があり、活発な議論が展開されましたのでご報告いたします。なお映画だけを鑑賞した人も合わせると、参加者は40名を超えました。

1) 日 時：2021年8月8日(日) 14:00~17:00

2) 発信会場：労働者協同組合連合会会議室

3) 映画上映：8月7日(土)および8日(日)のみYouTubeによる視聴

4) 対談テーマ：ひとにとっての真の復興とは

5) 登壇者：板倉真琴(脚本家、映画監督)、伊藤まり(NPO法人WE21ジャパン青葉代表)、原田雄一(浪江町住民、NPO法人新町なみえ代表、元浪江商工会会長)、松村 治(会員、早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員)、野坂 真(会員、早稲田大学)、長田攻一(事務局長、「災害と地域社会」研究会)



当日は、板倉真琴監督、伊藤まりさん、松村治さん、坂林さん、長田が会場に集合、そこを拠点としたオンライン開催となりました。浪江町の原田雄一さん、コメンテーターの野坂 真さんはオンラインでの参加となりました。

最初に、袖井会長から「復興五輪」を掲げながらその目的が二転三転したオリンピックの閉会式の日に合わせてこの対談会を開くことに意義があるとのこと挨拶があり、板倉さんからの挨拶、登壇者の紹介がありました。板倉監督から、浪江でドキュメンタリーを撮ろうと思ったきっかけと経緯についての説明と登場人物全員の紹介があり、映画についての理解を深めていただきました。



最初のテーマは「失われたふるさと」で、伊藤まりさんから、美しい山と川、そして海へとつながる豊かな自然に恵まれた土地で培われた伝統文化と人とのつながりによって営まれていた浪江のコミュニティ(ふるさと)が、原発事故によって失われた経緯を説明していただきました。伊藤さんは東京の日本橋生まれですが、現在でもふるさと

とは浪江だといいます。松村さんから、コミュニティでの親密な人間関係は田舎の生活様式のようにいわれているが、それは本来人にとって必要なものである。しかし東京で長期にわたって避難生活を送る中でコミュニティより生活の利便性を求める都市的な生活様式を避難者が志向するようになったことが帰還しない理由の一つであるとの指摘がありました。野坂さんからは、津波と火災で多くの人が亡くなったり転出し一瞬のうちにコミュニティが変質した大槌に対し、浪江は長い時間をかけて今もコミュニティがじわじわと変質している被災経験の質の違いを感じると指摘があり、長田からは大都会であれ危機を経験すればコミュニティを新たにつくっていく必要性の認識は生まれるという意見を述べ、コミュニティ喪失が提起する問題の深さを再確認しました。

休憩を挟んで、第2部のテーマ「町外コミュニティ」構想について、原田さんから発案から消失に至る経緯についての話を伺いました。全国に散らばってしまった浪江町民が、失われたコミュニティを取り戻すための方策の一つとして、「まちづくり NPO 新町なみえ」を中心に早稲田大学の佐藤滋研究室を含む複数の団体の協力を得て、浪江町の周辺地域に複数の「町外コミュニティ」をつくる計画を立て、福島市内に用地の目途も付け、浪江町、福島市に協力を働き掛けてきた過程を説明されました。浪江町は最初の段階ではその構想を復興計画の一部に取り入れる意向を示しながらも、町の第2次復興案から「町外コミュニティ構想」は消失していたとのことでした。



板倉さんから、じつは「町外コミュニティ構想」と時を同じくして国の側では、大規模国家プロ

プロジェクト「イノベーション・コースト構想」の企画が進められており、それが「オリンピック開催決定」と同時に急ピッチで進んでいることをいくつかの報告書や新聞記事資料を年表にまとめることで明らかにしました。原田さんは、ほぼ実現しかけていた「町外コミュニティ」構想を決定が出るまで公表できなかったことへの悔しさを言外ににじませて、その経緯を振り返られました。原田さんは、浪江町長がすでに国のプロジェクトを優先していたことを後から知ったわけです。

最後に、「ひとにとって真の復興とは何か」ということについて、板倉さんは「町外コミュニティ」の構想は一つの考え方として十分意義がある、しかしそれをすべての人に強制することはできない、人それぞれにとって復興のあり方は異なることを認めそれを支援する以外にないのではないかと問題を提起しました。

松村さんは、今の浪江町は伝統文化を持った町が消えてしまったところに新たに人が入ってきて新しい町ができて行くような状況にあるように見える。しかし、本来は浪江に帰りたい人が帰って復興していく道を何とか考えなければいけないと思うとコメントしました。野坂さんは大槌町の経験から、当事者が自分の地域にとって大事に思うことを表現できる仕組みの重要性を指摘し、災害直後の混乱に対応できるような仕組みを災害前につくっておく「事前復興」の必要性、また、一例として地域の元の姿やその後の変化を思い浮かべることができるような諸資料を収集してそれを住民の復興や平時の地域振興に活用していく試み（アーカイブ活動）などを紹介されました。そうした仕組みがないと国や県の大きな復興プロジェクトが前面に出てしまうことがあるということです。「事前復興」は、災害前の社会の備えという考え方ですが、現在の浪江の状況を考えると、アーカイブ活動は今からでも参考になるかもしれません。時間がなくて発言の機会を逸してしまった伊藤さんからは、終了後メールでご意見を寄せられました。「今回の『町外コミュニティ』と『イノベーション・コースト構想』は、まさに現在の新型コロナの状況とよく似ており、「人」と「経済」の構図です。浪江住民の絆か、経済復興か。人の命か、東京オリンピックか…。本当はもう少しその辺の所をお話したかったです。」



最後に、参加者の一人、双葉町出身で元読売新聞記者の小林茂さんから、「イノベーション・コースト構想」の経緯を調べているとのことで、それが53年前の『双葉原子力地区の開発ビジョン』と酷似しており、その焼き直しだと推測していると指摘されました。板倉さんもこれに近い見解を持っており、今回の対談会でもぜひ触れたいと言っていたことでした。しかしこれは次のテーマとして、小林さんにもご参加いただいて次回を開催することを確認して終了しました。3時間が短く感じられる対談会になりました。（長田記）

### 3. 研究会からのお知らせ

#### (1) 第23回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年8月18日（水） 15：00～17：00
  - 2) 場 所：Zoom 開催
  - 3) 概 要：コロナとICT（第21回からの続き）
- ※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

#### (2) 第24回「ライフプロデュース」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年8月25日（水） 17：00～19：00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：あなたにとって「異文化コミュニケーション」とは。以下の観点を参考に、意見交換しましょう。
  - 身近なところで世代間コミュニケーションギャップを感じる例。
  - オリンピック開催期間、若い世代の選手たちの活躍を通して感じたこと。
  - 今後、日本人が身につけていかななくてはならないものとは。
  - 参考図書を読んで、「ハイコンテクスト文化」VS「ローコンテクスト文化」について感じたこと。

#### 【参考図書】

「異文化理解力」 相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養

著者：エリンメイヤー 監訳者 田岡恵 英治出版

<http://www.eijipress.co.jp/book/book.php?epcode=2208>

ファシリテーター 中村昌子

※ 参加ご希望の場合は、前日までに中村 nakamurayoshiko6@gmail.com までお気軽にご連絡ください。

### (3) 第13回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

1) 日 時：2021年8月21日（土） 13：30～17：00

2) 場 所：きゅりあん（品川区立総合区民会館）

3) 発表者：鈴木 眞澄及びその他

4) テーマ：認知症を楽しく

びしょうざ  
劇団 「B笑座」第2回。  
「最もへたな劇団」です。

認知症を体験することで、認知症に学び、ビジュアルリゼーションすることで新たな発見が生まれます。尚、希望者は「回想」を行うために冊子『心づもり』を提供しています。

劇団員も募集しています。緊急事態宣言中ですがオリ、パラに負けずにやります。

※ お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願いいたします。

### (4) 第133回 社会保障研究会開催のお知らせ

1) 日 時：2021年9月15日（水） 18：00～20：00

2) 報告者：原田 謙（実践女子大学教授）

3) テーマ：「エイジズムの視点から世代間関係を考える」

4) Zoomで開催いたしますので、参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡ください。

阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp 小島みさお kojima.misao01@gmail.com

※ ご質問がありましたら、阿部（旧姓佐藤）まで 090-4436-6853

なお、8月はお休みです。

## 4. 研究会からの概要報告

### (1) 第22回「社会情報」研究会の報告

1) 日 時：2021年7月21日（水） 15：00～17：00

2) 場 所：Zoom 開催

3) テーマ：市川の学生ボランティアさんへのインタビュー実施

あらかじめお送りしておいた、インタビュー内容に沿って質問を行い、関連質問をメンバーから行いました。

地域の高齢者のちょっとした困りごとに対して、有償でサービスを提供しているとのこと。サービス内容は、草刈、ゴミ捨て、PC・スマホ操作手助けなど。料金は、15分300円、手数料1件300円となり、1時間では手数料込みで1500円。

PC・スマホ操作手助けについて、苦労するのは、カタカナ用語が伝わりにくい点で、分かりやすいたとえを使って、伝えるようにしているそうです。

ICT全般で依頼の男女比は、女性の方が多く、平均年齢は、60代後半～70代。Zoomやteamsのシニアの女子会に参加したいやイベントに参加したいというのは女性の方が多いそうです。

最後に、高齢者がICTを使いこなすことについて、伺ったところ、「高齢者が自立してICTを使いこなすことは難しいと思うが、分かる人が身近に誰か一人でもいれば環境は大きく変わると

感じる。慣れていないことをやると壁にぶつかって諦めてしまう人が多いので、その時にすぐに相談できる人がいる環境があれば、高齢者のICT活用につながると思う」とのことでした。

そして、「初めてのものだから敬遠しがちに見ているだけであって、慣れればもっと身近な存在だよ」という言葉がけをしているということで、スマートフォンやパソコンは「習うよりも慣れる」で、どんどん使ってみることがポイントということです。(森 記)

## (2) 第23回「ライフプロデュース」研究会の報告

1) 日時：2021年7月27日(火曜日) 17:00~19:00

2) 場所：Zoom 開催

3) ファシリテーター 中村 他参加者5名

テーマ：「コロナ時代の読書 私たちは何を読むべきか」のサイトを参考に、お奨めの本を一冊、解説してみましょう。

<https://kadobun.jp/serialstory/car/>

今回は、ZOOMに不具合が生じ、ビデオオフ、音声のみの2時間でしたが、冒頭に、新たに参加された方の自己紹介から始まり、それぞれのお奨めの著書を解説していただきました。コロナ禍という非常時の中だからこそ、読書を通して、今の自分、これからの自分を見つめる良い機会となったのではないのでしょうか。以下、参加メンバーお奨めの図書です。

・「老いて益々楽し」貝原益軒の極意 山崎光夫、新潮社 2008年

<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784106035982>

・「いのちの停車場」南杏子、幻冬舎文庫 2021年

<https://bookmeter.com/books/17785416>

・「老いの生き方」鶴見俊輔、筑摩書房 1988年

<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480841919/>

・「老〜いドン！あなたにも「ヨタヘ口期」がやってくる」樋口恵子、婦人之友社 2019年

<https://www.fujinnotomo.co.jp/book/essay/b2404/>

・『アルケミスト 夢を旅した少年』(錬金術師) パウロ・コエーリョ・著 山川紘矢+山川亜希子・訳、角川文庫 1997年

<https://bookwalker.jp/dea32ef6bc-e315-4808-85de-727443e9fa68/>

・「異文化理解力」著者：エリンメイヤー 監訳者 田岡恵、英治出版 2015年

<http://www.eijipress.co.jp/book/book.php?epcode=2208>

<https://honz.jp/articles/-/41904>

・人新世の「資本論」斎藤幸平、集英社新書 2020年

<https://shinsho.shueisha.co.jp/kikan/1035-a/>

・100分de名著：ポーパワールの老い 上野千鶴子、NHK出版 2021年

<https://www.nhk.or.jp/meicho/>

## (3) 第132回「社会保障」研究会の報告

1) 日時：2021年7月28日(水) 18:00~20:30

2) 報告者：金 貞任(東京福祉大学社会福祉学部)

3) テーマ：「韓国の介護保険制度の動向と介護事業所の新型コロナ対策」

4) 参加者：18名

韓国では、高齢者の介護を国民全体で支え合う介護の社会化を目指して、老人療養保険制度が2008年に創設された。介護保険システムの改定と現状、介護施設のコロナ対策を中心に、介護の社会化のための課題を報告する。

第1に、老人療養保険制度の改定では、特に認知症状がある高齢者に対する要介護度認定や介護施設入所条件が優遇されるようになった。介護入所施設は、2年ごとに事業所評価を受けることが義務

付けられ、報酬を得て家族を介護する家族介護ヘルパー（ケアワーカーの資格が必要）は増加の傾向にある。訪問介護事業所の社会福祉士は、サービス利用者のケアマネジメントと訪問ヘルパーの教育などを担っている。地域社会統合ドルボム（ケア・見守り）モデル事業（日本の地域包括ケアシステムに近い）では、高齢者や障害者の脱施設化と住み慣れた地域での生活を目指している。第2に、要介護認定者数は増加の傾向にあり、サービス利用は訪問ヘルパー、デイサービス、訪問入浴が多くなっている。介護施設の入所は、要介護度により制限されており、老人療養病院には介護が必要な高齢者の入院が増加している。介護サービス事業所は、サービス利用者を取り巻く競争、介護人材の確保などで経営維持が困難である。第3に、介護ヘルパーは、女性と50代以上が占める割合が高い。老人療養病院の付き添いは、約9割が韓国系中国人である。（医療・介護などのエッセンシャルワーカーを対象とする）必須労働者保護法が本年度に国会で可決され、介護ヘルパーへの退職金の条件は、週15回以上、1年以上勤務となっている。第4に、新型コロナ死亡者の感染経路は、療養病院・施設が2割であった。介護入所施設では、全員へのPCR検査、外部者と面会禁止などの対策に取り組んでいる。

韓国の介護の社会化のためには、男性が働きやすい環境、AIの積極的導入、退職高齢者の活用、家族介護ヘルパー活用、老人療養病院の入院患者の地域居住などが取り上げられた。（金 貞任 記）

## 5. 事務局からのお願い

### <会員情報変更時のご連絡のお願い>

コロナ禍中、各種ご連絡をメールや郵送で行うことが多くなっております。会員情報（氏名・住所・eメールアドレス等）に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願いいたします。なお、電話による会員情報変更等の連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、eメール：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) 又は郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願いいたします。

### <9月JAAS Newsの発行日>

次回JAAS News 第265号の発行日は、9月22日（水）です。原稿をお寄せ下さる方は、9月15日（水）までにeメール添付にてお願いいたします。

### <緊急事態宣言中の事務所の開室について>

事務局は、「緊急事態宣言」発出を受け2021年8月31日（火）まで休室とします。その後は様子を見て開室日程をホームページにてお知らせします。その間、電話・FAXはご利用できませんのでご容赦ください。ご不便をおかけしますが、ご用件、お問合せは、出来るかぎりeメールでお願いいたします。

ようやくワクチン接種が進みつつありますが、新型コロナウイルス感染の拡大傾向は、いまだ楽観を許さない状況が続いています。皆さまそれぞれに自粛を心掛けている日々と存じますが、今なお誰もが感染する恐れが薄らぐことはないような状況です。今後とも十分な注意を払って慎重にお過ごしいただきますようお願いいたします。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局（水、および月または金オープン）  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202  
電話&FAX：(03) 5778-4728  
eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：http://www.jaas.jp/